

ロボットプラットフォームBOCCO emo APIsを活用した開発事例

概要

コミュニケーションロボットBOCCO emo(ボッコエモ)は、家庭内や様々なビジネスシーンで利用されるようになり、住友生命、SECOM、東京ガス等の企業と実証実験を重ねてきました。APIの活用によりロボットご利用者への企業様の情報配信やご利用者様からの音声やセンサー情報の取得が可能になります。

特徴

- ①子育て層向け:住友生命様と家事・育児負担軽減等のサービス開発を進行中。孤独に悩むママに寄り添い、産後鬱予防の一助となることを目指します。
- ②シニア層向け:セコム様とは孤独感解消、ネコリコ様とは熱中症予防等の見守りを実施中。新たにライザップ様と共同で食事と運動のサポートを提供し、フレイル予防に一定の成果を獲得する等、サービス拡充を進めています。
- ③既存業務へのご活用:FLIE様と不動産物件の無人内見案内対応、既存業務の生産性向上等、業務用ユースケースの拡大を進めています。

今後の展開

- 使い手に愛されるデザイン、音声認識、音声合成、無線通信等の技術を強みとした製品・サービス開発、DX支援を中心に展開予定です。

テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

BOCCO emo APIsを活用した、体重計や血圧計等のヘルスケア機器連携を進めています。つい忘れがち日々の計測をロボットがフォローし、励ますことによるユーザーの行動変容について研究しています。

